



No. 161 2026.9

(株) よかネット

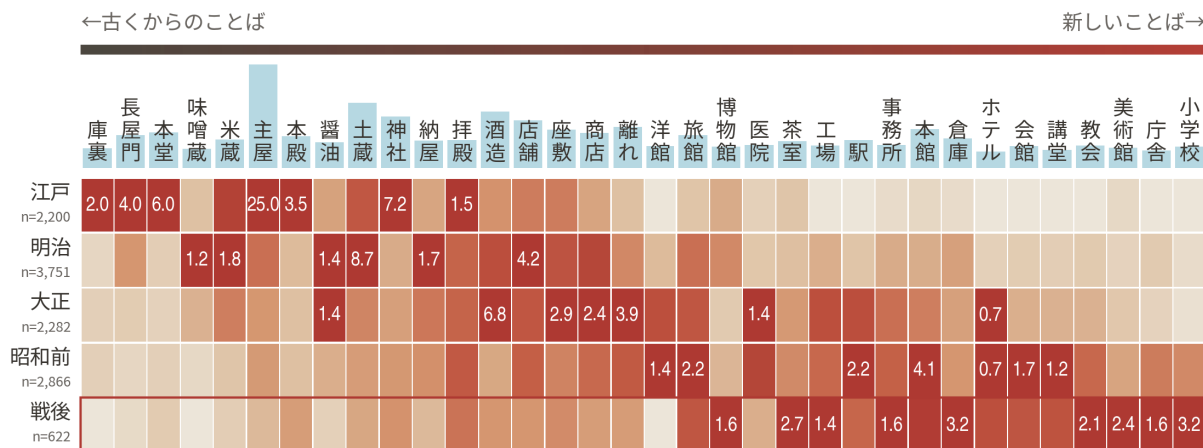
## NETWORK

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 50年を振り返る                      | 2  |
| 「そえだ学童保育所」が完成しました！            | 4  |
| ご意見、近況などの紹介                   | 7  |
| 見・聞・食                         |    |
| 宗像市大島の人々の中心にある信仰を体験してきました     | 7  |
| 近況                            |    |
| ふくおかポイントを体験する                 | 10 |
| 「2050年の天気予報（Ver.2）」が一般公開されました | 11 |
| 新人紹介                          | 12 |
| 表紙解説                          | 13 |

## ●名前から見る登録有形文化財の移り変わり

157号でもお伝えしたとおり、一昨年度より福岡市の高経年賃貸住宅の調査を行っています。その中で、福岡市の築年数を重ねた賃貸住宅が利便性の高い都心部に多く残っていると分かってきました。一方で、現地調査の中では、すでに解体されていた建物も一定数ありました。高経年賃貸住宅に、どのような価値を見出すのか。2024年に登録有形文化財となった冷泉荘（旧八木アパート）は一つの姿と言えます。

そこで、今どのような建物が登録されているのかを「名前」から見てみました。文化庁のデータベースから登録有形文化財（建造物）14,745件を取得し、うち建築物11,721件の名称に含まれる語を時代別に集計したのが下図です。江戸・明治は「主屋」「土蔵」、大正は「酒造」「商店」、昭和前期は「本館」「駅」「旅館」、戦後は「小学校」「庁舎」「美術館」が主役です。「建設後50年」が登録の目安のため対象は年々新しくなり、2025年の新規登録の約2割は戦後の建物でした。「姓を冠した住まい」から「まちに開かれた建物」へ。かつては住まいと生業が一体で、建物は家族の名で呼ばれていました。それが学校や庁舎など、多くの人を使う建物に移っていく。この名前の変遷は、暮らしの場の移り変わりを映しているのかもしれない。



色＝その語の最盛期を100とした割合（語どうしの量比較には使えません）

0 25 50 75 100

水色の棒＝その語の総出現回数  
高さは平方根スケール

数字＝最盛期の出現回数／登録100件（同率ピークは両方に表示）

【注1】「最盛期」は、その語の出現回数（登録100件あたり）が最も多い時代を指す。

【注2】語は出現の時代重心（出現分布の重み付き平均）が古い順に左から配列。重心が同値の場合は当該時代の出現回数が多い順。

【注3】戦後＝昭和中・昭和後の合算（n=622）。

【注4】姓・方角・「家」「住宅」等の定型語は除外。

【出典】文化庁「国指定文化財等データベース」（2026年8月時点）より作成。名称（括弧書きを除く）を形態素解析し語を抽出。

## 50 年を振り返る

山辺 眞一

(株)地域計画建築研究所(以後アルパック)の九州事務所として開設されたのは、1976 年 10 月、アルパック創立後 10 年目のことである。

九州事務所開設の前、1972 年 9 月に大阪事務所が豊中千里中央に開設され、その 4 年後に九州事務所は開設された。開設時の事務所は、博多駅地区にあるオフィスビルで、現在のキャナルシティ博多の博多駅側の交差点にあった。学生時代にアルバイトに行っていたので場所は覚えている。その 2 年後、現在の中洲の事務所の 1 軒挟んで東隣のオフィスビルに引っ越す。その 1 軒とは、木造 2 階建ての博多券番である。現在博多券番事務所は、櫛田神社の向かい側の博多伝統芸能館に移転している。

1981 年 4 月、アルバイトをしていた縁でアルパック九州事務所に入社することになる。一緒に入社した前社長の山田さんに会ったのは入社後のことである。入社前にアルバイトに行っていた頃は、沖縄の中城港湾や国鉄長崎駅周辺整備計画、福岡県大規模未利用地調査などに関わる作業を手伝っていたことを記憶している。

入社当初は、前年度からの業務を仕上げる時期でもあり、慌ただしい時間を過ごしていた。入社後の初めての年明け 1 月 9 日には、新しい会社に転職することになる。

九州に事務所が開設されて 50 年、独立して 45 年を迎えることになるため、一つの区切りとして、1980 年代から 2026 年に至る 50 年間の業務を振り返り、まちづくり、都市計画、地方創生などのコンサルティング業務が、社会課題の変容に伴い、どのように進化し変化を遂げてきたかについて、私見ではあるが総括を試みた。

### ●成長拡大の基盤づくり(1980-1985 頃)

開設当時の顧客は住宅公団や福岡県、福岡市、国鉄など、アルパックを通じた仕事先に限られていた。そして 1980 年代前半は、第三次全国総合開発計画(三全総)において、都市の郊外への拡大、人口増

加に対応する住宅・宅地供給が課題とされていたように、この時期の受託業務は、増大する都市開発需要をいかに受け止めるかという都市計画の時代であった。具体的には「福岡県の大規模未利用地調査 1980」、「福岡市西部住宅市街地整備構想 1979」、「北九州都市圏における宅地開発情報調査 1984」など、都市、市街地の拡大のための土地利用計画や需要調査などであった。

一方、経済成長を支えていた石炭産業が石油へのエネルギー転換により合理化され、筑豊地域の炭鉱は、1976 年の旧宮田町の炭鉱閉山を最後に無くなった。残された炭鉱地域の住民は会社から与えられていた炭鉱住宅に住み続けられたものの、老朽化が進み環境改善もされなかった。そこで、不良住宅の除却と建替えのため、住宅地区改良事業を使った炭住改良を始めた田川市とはそこから長く関わることとなる。産炭地の急激な地域崩壊を防ぐ手段として住宅困窮者の人口流出の大きな防護壁となり、土木・建設による就労機会を提供したが、持続的な雇用の場づくりまでは至らず、工場など企業を外部から誘致する産炭地振興策が中心となる。

この時期の調査研究方法は、紙の地図や統計表によるアナログな手法が主流であり、「県営住宅需要調査 1984」等、定量的需要の検証が主であり、管理運営の効率化やコスト削減の視点はまだ希薄であった。また、市町村の総合計画等でも、開発型の計画が主であり、ストック活用という概念も未だ存在しておらず、スクラップ&ビルドによる新設が行政としての最適な解であり、成長の継続、規模の拡大にエネルギーを注いでいたと言える。

### ●都市機能の高度化、多様化(1986-1991 頃)

1980 年代後半、リゾート法の施行やバブル経済の過熱化に伴い、まちづくりは単なる基盤整備から都市機能の高度化や華美な施設づくりへと転換した。また、ハイテク産業誘致など、都市機能の高度化や知識集約型産業へのシフト(北部九州研究学園都市

構想など)、海外との交流、投資交流への志向が高まり、地域の魅力を発掘し外へ向けて発信する業務が増えた。

例えば、「九州大学学術研究都市構想」関連の調査業務は、地域経済を高度化させ、頭脳流出を食い止めるための知的クラスター形成を意図したものであり、「国際化と地域社会 1987」や「姉妹都市ガーデン基本構想 1989」などは国際的な魅力づくりの取組であった。

さらに、土地利用の見直しによる活性化を図るため「鹿児島市観光地区調査 1986」や都市の新たな魅力づくりとして「旭町東新町地区市街地再開発 1986」等では、既存市街地の高機能化を図る計画づくりに取り組んだ。

特に「北部九州研究学園都市構想 1987」等の一連の業務では、その後の知識集約型都市づくりへの布石となったのだが、これは、アルパックの取組んできた京阪奈丘陵の関西学研都市づくりの実績が評価されたものであった。この頃から、つくば研究学園都市、関西学研都市に続いて、九州、東北、愛知など各地の知的拠点づくりが行われ、地方における経済成長の源泉を「物理的インフラ」から、教育や研究開発といった「人間資本・知的資本への投資」へと転換させる動きの始まりとなった。地方の都市・地域をこれまで以上に「高機能で魅力的な商品」へ磨き上げるといふ、華やかな開発志向の時代でもあり、内発的成長の萌芽期でもあった。

#### ●管理・運営への転換(1992-2008 頃)

バブル崩壊後、まちづくりの視点は、「新規建設」から「既存資産の維持管理(ストックマネジメント)」へと劇的にシフトした。

少子高齢化が共通課題として認知され、「高齢者住宅計画 1999」や「福祉の街づくり整備計画 1993」といった、社会的弱者に配慮する計画が新たな受託業務の範疇に据えられた。

また、DXの初期的なものとして「佐賀県新地域情報化推進計画 2001」や「ユビキタス地域社会の利活用調査 2008」では、情報技術による行政効率化の模索、民間需要の検証が始まっている。

観光振興に関しては、2000年代に入り「佐賀市観

光振興戦略プラン 2000」策定や「佐賀城下ひなまつり経済波及効果測定 2001」など、市民参加、体験型、ソフト重視への観光政策への転換が図られている。

公共ストック活用において重要なトピックとなったのが、大学機能と都市機能の連携に向けた「九大新キャンパスにおけるタウン・オン・キャンパス民間施設等導入検討調査 2002」であり、大学移転という巨大なストック移転を契機として、都市機能との連携により、地域経営に活かそうとする先駆的事例である。

また、公営住宅再生プロジェクトに見られるように、長寿命化と再生が、新規建設に代わる主要業務となり、都市施設、公的施設の「質的転換」を模索する過渡期となって、ストック活用へ大きく舵を切った時期である。

#### ●地方創生とインバウンド(2009-2019 頃)

2013年に災害対策基本法の改正が東日本大震災を教訓に行われた。これを契機に、2014年頃から、福岡県では避難体制や避難行動要支援者への対応、自主防災組織づくりが課題となり、モデル地区での防災コミュニティづくりの支援などの業務の受託がこの時期に増加した。

また、人口減少が不可避となり、人口減少と少子高齢化に対応するため2014年改正都市再生特別措置法による「立地適正化計画」が創設され、居住地域の拡散を防ぎ、都市機能の集約によるコンパクト&ネットワークによるまちづくりの重要性が高まる。

コンパクト&ネットワークでは、「みやこ町生活交通ネットワーク計画 2012 年」等、交通インフラの再編業務をはじめとして、都市計画関係では将来のコスト増大を視野にまちづくりの基本姿勢としても定着してきている。

特に、個々の自治体における少子高齢化への対策として「地方創生」が国策となり、「添田町人口ビジョン 2015」や「玉名市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2015」等、生き残り戦略を検討する業務は現在も継続更新している。

DXの観点では「シェアリングエコノミーセミナー多

久市・2016」のように、デジタル技術による人的資産

の生かし方をシステム化するウィンウィンの関係づくりが注目された。

一方、日本の観光振興による訪日インバウンド客の受け入れはこの時期に爆発的に拡大が始まり、インバウンドをターゲットに観光振興戦略プランの改訂やDMO 構築支援業務が増加する。これらを検討する基礎として、マーケティングとデータに基づく誘客戦略の構築が戦略の要へと進化した。

ストック活用はさらに深化し、「福岡県空き家対策事例集 2013」や「遠賀町空き家の利活用を見据えた調査 2015」のように、負の遺産となったストックをいかにして「移住・定住」の資源へ転換させるかが、コンサルタントに求められる重要な技術となった。

### ●新時代のモビリティ・広域連携（2020～）

コロナ禍を経て、まちづくりはデータ駆動型の意思決定と持続可能性（GX）の融合へと進んでいるようである。

それは、人口減少や人材不足への処方箋として「熊本型観光 MaaS 事業 2021」のような、移動情報のデジタル化による最適化が実装のフェーズに入ったことや、AI の活用による実装化の取組みの増加である。また、地方の観光受入拡大では「鹿児島県観光マーケティング調査 2021」のように、GPS 等のビッグデータを用いた動態分析が必須となっていることや、さらに「熊本県産品輸出可能性調査 2021」に見られるように、国内市場の縮小を見越し、インバウンド拡大方策の一つでもある海外市場直結型の産業支援などは、既に行政の施策ニーズの最前線に位置付けられている。

さらに、GX とストック活用の融合という視点では、脱炭素計画や気候変動への適応策推進の流れにおいて、脱炭素化の視点は既存ストックの長寿命化計画においても必要となってきた。

このように、持続可能な地域運営、レジリエントな都市経営、地域経営を支えるためのコンサルティング技術を磨き上げ、次代を担う人材の確保と育成は、今後も大きな課題である。

（やまべ しんいち）

## 「そえだ学童保育所」が完成しました！

福吉 聡子

「そえだ学童保育所」は福岡県添田町の放課後児童クラブです。放課後児童クラブとは、児童が放課後帰宅しても、保護者や同居の方が就労等により不在である家庭の児童を対象に、遊びと生活の場を提供し、健全な育成を図るものです。

当社は、R5 年度に建築基本計画、R6 年度には基本・実施設計、R7 年度に工事監理を受託し、一貫して建築の検討当初から建物の竣工まで携わることができ、R7 年度（R8 年 2 月）、無事建物が完成しました。

### ●経緯・スケジュール

添田町では、5 つの小学校の統合新築に伴って、新たな放課後児童クラブ（以下「学童」という）を新しい小学校に近い添田公園駐車場の一角に整備することになりました。

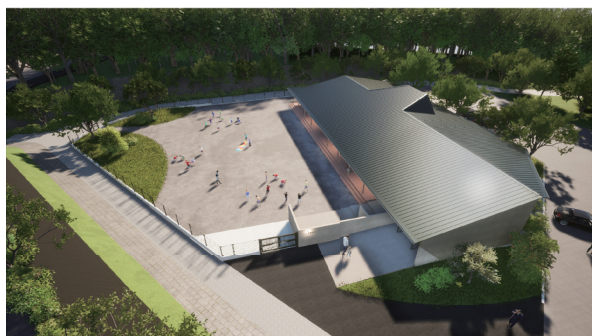
スケジュールとしては、統合小学校が開校した後、学童クラブ整備工事を行って 1 年後に新しい学童のオープンという流れです。

3 つの学童のうちの 1 つ、落合学童保育所は統合を待たずに閉鎖されることが決まっていた児童は、添田と中元寺の学童保育所に一旦移動し、その後新しい学童に統合されました。

以下に、各業務の大まかな流れをご紹介します。

### ●R5 年度 建築基本計画

建築基本計画は、計画地候補の中からの敷地選定より始まりました。4 か所の新築用敷地と 2 か所の改修候補地、計 6 か所から、メリット・デメリット等の比較を経て、添田公園駐車場が選定され、駐車場の一部を新学童の敷地として利用することになりました。新しい小学校から、低学年の児童でも徒歩 2～3 分程度で移動できる場所です。学校に近いことの他に、児童が学校から車道を横断しないですむ点や万が一学校に忘れ物をしても、自分で取りに戻ることができる点、十分な広さが確保できる点等が評価されました。新たな学童の敷地は添田公園駐



全景鳥瞰パース

車場の中にあり、周囲を緑に囲まれた豊かな環境です。子供たちが望む園庭も十分確保できます。この場所は都市公園の中ですが、平成 29 年の都市公園法の改正により、占有が可能な施設となりました。

基本計画の策定にあたり、検討を行った主な内容は、下記のとおりです。

- ・ 添田町における学童利用対象年齢人口の将来推計、町内の未就学児の人数等からの今後の利用想定人数の設定
- ・ 3 か所の既存学童施設の児童および放課後児童支援員（以下「支援員」）に対してのヒアリング、意見交換の実施
- ・ 建替地および周辺の道路・インフラ・ハザードの状況、法的条件の整理
- ・ 調査・協議から導き出された施設整備基本コンセプトの策定、所要室及び施設構成の整理
- ・ 基本計画案の作成、事業手法の検討、事業スケジュールの検討、概算事業費の検討、設計に向けての留意点の整理
- ・ 将来的な用途転用の可能性について検討

基本計画業務の主なものは以上の通りですが、その合間に、支援員の方が加入している福岡県学童保育連絡協議会の研究集会を紹介いただき、学童保育を取り巻く現状等について学びました。

放課後児童クラブに関する国の参酌基準には「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」があり、施設整備についての主な基準は次の通りです。児童一人につき、約 1.65 m<sup>2</sup>の遊び及び生活のスペースを確保すること。40 人を上限とする支援の単位ごとに専用の学童室を設け、原則として 2 人以上の放課後児童支援員を配置すること等です。放課後児童支援員は、放課後児童クラブにおいて、児



全景パース：園庭を通して学童施設を見る

童の生活、遊び、学びを支えることとされている専門職員です。所定の研修を受け、資格を取得する必要があります。

そえだ学童保育所は、支援の単位は 4 つ、1 単位は 35 人と定まり、1 部屋あたり 35 人の利用が可能な学童室を 4 室備えることになりました。これが、この施設の骨格ともいべきものです。その他に必要な諸室を備えて学童施設を構成します。

#### ●R6 年度 基本・実施設計

設計には、子育て関連施設の実績が豊富な（有）設計機構ワークス、構造設計のアトリエ 742、設備設計の（有）シード設計社との協働による体制で臨みました。

基本計画図を元に、長所を強化しつつも弱点を補うために、新たな間取り案 4 案を提案し、その中の 1 案を元に基本設計案を決定しました。ただし、設計者としては基本計画案が「中廊下型」であって、廊下の採光・通風条件が悪いため、少し見直しを行いたかったのですが、関係者一同で協議決定した案は、ほぼ基本計画案通りとなりました。そこで、後ほど触れますが、条件の改善は別の方法を検討することにしました。

基本設計案の決定までには、雨天時に使える遊戯室を望む声もありましたが、将来的に児童数が減少することが予想されるため、専用の室内遊戯室を設けるのではなく、施設全体を児童の居場所として使えるよう配慮することになりました。廊下なども移動のために通行するだけでなく、子どもたちが過ごす場所と捉えています。学童室と園庭との間にはデッキを設けて、学童室から直接デッキに出て過ごしたり、園庭で走り回って疲れた子どもがちょっと休憩したりする場所と考えて設計しました。



廊下：ねらい通り、子どもの過ごす場所になっている



デッキ：子どもが過ごす場所となつてほしいが、写真撮影日は猛暑日で、今後に期待したい

ところで、柱のない広い部屋を作ると、梁が大型化する、木材が調達しにくくなる等の事情からコストが上がりますが、設計の過程で 70 m<sup>2</sup>ほどの学童室の中に柱が出ることが受け入れられたので、結果として整備費用の上昇が抑えられました。

その他、コストを抑える策として、支援員の方々の発案で、トイレの利用に関わらず、みんなで使える手洗いを廊下に集約設置することになり、設計者側では、廊下の環境を良くするために採光と通風のための高窓と掃出窓を設けました。

また、利用予定者である支援員からの要望として、学童のイベントや保護者会への対応のため、複数の学童室をつなげて1室として使えるようにしたいというものがありました。そこで、構造的に可能な範囲で配慮し、2つの学童室をつないで1室として使える設計としました。

#### ●R7 年度 工事監理

R6 年度に新しい小中学校が完成しました。学童施設の建設予定場所に小中学校整備工事の現場事務所があったので、プレハブ建築が解体されて、学童施設の建設場所が確保されました。

建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事の3つの工事がほぼ添田町内の事業者により実施され、当社は監理を受託しました。



学童室：各室内には柱あり。2室をつないで使える



廊下手洗い：上部に高窓、廊下の突き当りに掃き出し窓を設けている

工事は数点の設計変更を経て、概ね順調に進みましたが、まったく思いがけないことが竣工間際に起こりました。外構工事もほぼ終わり、植栽を行ったところ、その晩に鹿の食害があったのです。設計者チーム一同は福岡市内在住で、鹿の存在を日常的に身近に感じたことがなく、体育館や武道館といった大きな施設に囲まれ舗装された駐車場の横の新たな施設に添えられたほんの少しの植栽に鹿がやってくるとはまったく思いませんでした。一方、添田町の人にとっては、わざわざ言及するまでもない当たり前のことだったのかもしれませんが。その後町では、食害を防ぐフェンスを設置することになりました。

この場を借りて関係者の方々に御礼を申し上げるとともに、この小さな施設が長く添田町の方々に愛されることを願っています。（ふくよし さとこ）

※パース作成はすべて（有）設計機構ワークス



全景：アプローチ付近から（入口脇に少しだけ見えているのが、食害にあった植栽）

皆様から寄せられた「よかネット」  
へのご意見、近況などの紹介  
(敬称略)

※ハガキを頂いた時点での内容です。

■東京は5月なのに真夏の暑さです。渋谷は、歩く人の半分は、外国人です。よかネット拝読しております。(東京都渋谷区 服部 万里子)

■毎年大変ですが、頑張ってください。こちらも元気で毎回楽しみにしています。

(唐津市 諸熊 雅博)

■毎朝 5km のウォーキングをしています！絵画を日々行ってます！妻と娘との会食を日々行ってます！(那覇市 備瀬 知伸)

■糸島の里山再生をねらって、国蝶の「オオムラサキ」の保存を企画しています。知恵・情報・興味のある方は力を貸して下さい。

(福岡市 簗原 俊樹)

■160回の発行おめでとうございます。机の上に、よかネットが届いていると、嬉しくなります。離島の屋久島にも届けてくれる有り難いネットワークの中で、世の中の動き、九州、福岡の時代の動きが手にとれます。若手の取材が生きてますネ。(鹿児島県屋久島町 浦田 功)

■地域のサステナビリティは重要課題です。担い手の育成を継続的にする必要があります。博多地区への通勤可能エリアの分析、興味深かったです。皆様の近況報告も、人それぞれで楽しく読ませていただきました。

(佐賀市 福田 勝法)

■間もなく傘寿を迎えます。“目に飛蚊 耳ホトトギス 初大間”で先日、五所川原市金木町の斜陽館を初めて訪れました。明治、大正、昭和初期の頃のこの地の隆盛が偲ばれました。

(春日市 藤原 正教)

■2005年から2015年までの10年間かけて、雲仙温泉古湯地区の街並み改修に携わった。地元協議会で議論を重ねて作られた構想に基づいて、街並み環境整備事業により、5年かけて

約40棟の商店などのファサードを改修し、次の5年間で街路や水路、公園の移設や新設を行い、消防車の活動可能なレトロな街並みへと造り変えられた。ところが先日10年ぶりに古湯地区を訪ねてみて驚いた。造り変えられた街並みは家並みが歯抜け状態になり、元会長の話では、夜6時過ぎると商店街は灯が消え真っ暗になるという。携わった計画で生き残って機能しているのは、街路、公園、移設された水路などのインフラだけのようだ。民地内施設の統一的な維持管理は、つくづく難しいと感じた。(小郡市 大渡 剛弘)

■街づくりで社会と継っている事務所なので、考え方も一緒ですね。スタッフさんの個々の体験記には楽しく読ませて貰っています。人間に残る仕事、AIに関する記事には共感しますし、それを実践している会社なので大丈夫だと思いますよ!!(福岡市 深沢 栄太郎)

■東京都美術館開設100周年記念展「この場所の風景ー上野・大牟田・ブエノスアイレス」(7/23～10/7)が開かれ、父・江上茂雄の作品が展示されます。そこには父が孫達にかき送った沢山の絵ハガキの展示コーナーも予定されています。映画「ハムレット」のシェイクスピアに倣い、僕は、今は亡き孫＝僕の次男・奏の名前と面影をそこに刻もうと小さな努力をしています。

(福岡市 江上 徹)

■No.160も「博多通勤」「脱炭素経営」「オーバーツーリズム」「清酒・焼酎づくり蔵」「観光と天候リスク」と地域の“リアル”にふれる記事、いずれも読みごたえがありました。ありがとうございます。今後も地道な「根っ子ワーク」に期待しています。(糸島市 坂口 光一)

■毎号楽しみに拝見し、社内でも回覧共有しております。長年のご経験と実績に裏打ちされたユニークな切り口、分析の着眼点は読んでいて勉強になります。所員の方々のお人柄あふれる近況もいつも楽しく拝見しています。ありがとうございます。(福岡市 神崎 依子)

■R8.4.1より福岡県住宅供給公社筑後管理事務

所に勤務しております。久留米市方面へお越しの際には、久留米リサーチセンタービル4Fにお立ち寄りください。

(久留米市 上野 孝徳)

■いつも多方面の情報を拝読しています。興味深いかつ今日的な内容を我が地域でも活用できるのではと検討しています。

(国東市 福田 昂明)

■地域の社会経済を主にレポートするなかで、我が国あるいは世界の各地で直面している重要な課題がそれぞれに含まれており、これだけのものを集め編集して発行するのは大変だなあといつも感心しております。最近、私自身は健康のためもあり、観光客のほとんどいない京都の寺等で仏像や庭園を眺めたり、街歩き出したりすることが多くなっています。

(高槻市 日野 博彦)

■私が会長を勤める「浪の平まちづくり協議会」と相談役を引き受ける「長崎居留地歴史まちづくり協議会」の要望が実り、三校統廃合の小学校跡地が『さざなみひろば』として、今春、廃校20年にして整備され、バスケットゴール設置や段差を生かした長いスベリ台などで子ども達の声が再び聞こえるようになりました。

(長崎市 鮫島 和夫)

■母98才。これまで福祉インフラを利用しつつ、独居していたが、転倒、入院が続き、先日老健に入ってもらいました。病院より少し広いが、4人部屋。人生の最終章に、本当にこれでよかったのか、今も揺れています。福祉・教育・文化には自己責任を押しつけ、湯水のように軍事へ公金を流す。日本は明らかに転落しています。

(別府市 小田 博道)

■町内自治会長を止む無く引き受けて5年になります。校区自治会長の中で最年長となり後釜を捜していますが見つかりません。個と自由の身勝手な拡張はこうした共同体組織を絶滅危機種化していきます。目まぐるしい世の中の変化の中で日本人の美德が変質して来ています。傘寿を越えた遊行期にも入ろうかという老人にとって

は憂うべく毎日を過ごしております。

(福岡市 西岡 弘)

## 宗像市大島の人々の中心にある 信仰を体験してきました

酒見 知里

『世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群』（以下、世界遺産「宗像・沖ノ島」）と聞いて、どのようなイメージを持ちますか？

社内で聞いたところ、「宗像大社は、交通の神様がいらっしゃる」、「入島できない島がある」といった返答でした。

今年度、世界遺産「宗像・沖ノ島」に関する業務を受託し、宗像市・福津市に何度か足を運ぶごとに、社内で聞いた断片的イメージが繋がり、世界遺産「宗像・沖ノ島」の価値について理解が深まりました。大島への来訪では特に、世界遺産「宗像・沖ノ島」を支え続けてきた地域住民が、どのような想いを持って価値を守り続けてきたのか体感することができました。

### ●世界遺産「宗像・沖ノ島」について

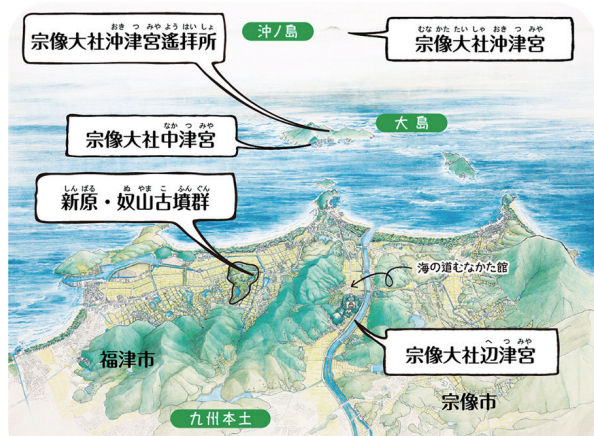
世界遺産「宗像・沖ノ島」は、宗像市・福津市にまたがる8つの構成要素により成り立っています。

#### <世界遺産「宗像・沖ノ島」の8つの構成資産>

- ・沖ノ島（宗像大社沖津宮）
- ・小屋島（宗像大社沖津宮）
- ・御門柱（宗像大社沖津宮）
- ・天狗岩（宗像大社沖津宮）
- ・宗像大社沖津宮遙拝所
- ・宗像大社中津宮
- ・宗像大社辺津宮
- ・新原・奴山古墳群

祀られている神は、アジアの大陸との交易紀に登場する宗像三女神です。三女神はそれぞれ、沖津宮、中津宮、辺津宮で祀られ、その三宮を総称して宗像大社と言います。

- ・田心姫神 たごりひめのかみ（沖津宮）
- ・湍津姫神 たぎつひめのかみ（中津宮）
- ・市杵島姫神 いちきしまひめのかみ（辺津宮）



主な構成資産の地図（「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群ポータルサイトより）

宗像地域の信仰の始まりは、1600 年前（4 世紀）に日本とアジア大陸との交易のため、航海の安全を祈願していたことに由来し、現代でも続く交通安全の神様と呼ばれる原点となっています。当時、高度な航海技術を有していた宗像氏が和朝廷と連携し、海外との外交を担っていました。沖ノ島から出土した約 8 万点の国宝の中に、中国製の鏡やペルシア製のガラスなどが含まれており、宗像地域が古代の国際交流の場であったことを示しています。

これらの歴史的背景から、主に以下の 2 つの価値が認められ、世界遺産に登録されました。

- ① 4 世紀～9 世紀の間のアジアの国家間の重要な交流を示す出土品が遺されていること
- ② 沖ノ島の厳格な禁忌により、遺跡がほぼ無傷で保存され、古代祭祀の変化を証していること

#### ●住民の信仰心により守られ続けてきた宝

沖ノ島は、島全体が宗像大社の御神体であり、古代の信仰と自然を守るために以下の禁忌が住民や神職により守られ続けています。

・「一木一草一石たりとも持ち出さない」



中津宮の本殿周りを囲む摂末社（宗像大社 HP より）

- ・「見聞きしたことを口外しない（不言様）」
- ・「上陸前の海中での禊」
- ・「一般人の原則入島禁止（女人禁制含む）」

これらの禁忌を 1600 年間守り続けた住民のおかげで、沖ノ島にある約 8 万点もの宝物が現代まで盗掘されず、残されています。

多くの世界遺産では、過去の盗掘や流出によって遺跡本来の場所に遺物が残されていないケースが多く、博物館などが買い戻すことでようやく人々の目に触れているのが現状です。そのため、沖ノ島のように、約 1600 年前の祭祀遺跡や出土品が当時のまま手つかずで残されている事例は、世界的に見ても奇跡的と言えます。

これらの禁忌を守り続けてきた宗像地域の人々の信仰や暮らしを理解するため、大島を訪れ、月次祭に参列するとともに、山笠を体験しました。

#### ●月次祭（つきなみさい）

月次祭は、毎月 1 日と 15 日の 11 時半から三宮で同時刻に行われます。神職や氏子、地域の人々が、神様に日々の感謝を伝え、地域の安寧や暮らしの無事を祈る、神事です。参加は誰でも可能なため、私も中津宮の 7 月の月次祭に参列しました。平日にも関わらず参拝者が 15 名ほどおり、何度も参加されている方の話では、平日・土日関係なく毎回 10 名ほど、参拝者がいるそうです。

中津宮の月次祭では、本殿で神前拝礼や祝詞奏上などが行われた後、最後に本殿の周囲にある摂末社を巡り、沖津宮と辺津宮の方向に向かって拝礼を行いました。その後の直会にも参加させていただき、宗像の新鮮な刺身や野菜の天ぷら、きんぴらなどの食事を神職や参拝者の皆さんと会話を交えて楽しみ



七夕祭りの飾りつけがされている中津宮

ました。参列者の中にいた市外在住者の2人の女性は、何度も月次祭に参加されているとのことでした。他にも宗像の信仰の場を体験し、ファンになり、何度も通う人がおられるそうです。

月次祭の神事や直会の際は信仰だけでなく、定期的に顔を合わせることで参加する人たちのつながりが続き、時代を超えて地域の歴史や文化、信仰の価値観が継承されていると思いました。

宗像大社では、月次祭だけでなく、毎月様々な祭事が執り行われています。私が訪れたときも、午前中に月次祭、午後に祇園山笠と2つの行事がありました。境内には、8月の七夕祭りの飾り付けもされており、行事の数の多さを実感しました。

### ●大島祇園山笠

午後の祇園山笠は、中津宮での参拝から始まり、大人の山が2基、大島学園の生徒や保育園の園児が昇く山が2基、掛け声を出しながら、大人は2キロを走り、子どもは歩いて島内の大きな集落を巡りました。

とても暑い日だったので、巡行中に、住民の方々からの応援の気持ちのこもった勢い水(きおいみず)があり、私も子どもの山と一緒に歩いていたため、冷たい水を全身で浴びました。

山笠の後も直会があり、私は参加できなかったのですが、イワシを焼く良い匂いが漂う中、美味しそうな寿司桶を見て、後ろ髪を引かれながら船に乗り、帰路につきました。

### ●大島の人々と交流をして感じたこと

月次祭には飛び入りで参加したのですが、一緒に参列していた地元の女性が、礼をするタイミングや辺津宮・沖津宮でも同じ時間に行われていることな



掛け声とともに山を昇く様子

ど、親切に教えてくれました。

また、宗像大社の関係者から紹介をいただいたおかげではありますが、外の人間が気軽に直会へ参加することもできるなど、地域外の人を受け入れるオープンな雰囲気を感じました。

神道には「中今(なかいま)」という言葉があります。悠久の過去から未来へと続く歴史の連続性において、その中間点にあるのが「今」である、という意味です。

未来につなぐために「今」という時間において禁忌や信仰を守る姿勢があることで、月次祭やその他の祭事が継承されているのだと知ることができました。(さけみ ちさと)

## 近況

### 「ふくおかポイント」を体験する

福岡市の地域ポイント事業「ふくおかポイント」とは、ボランティア活動への感謝の気持ちとしてポイントを付与し、何らかの特典(公共施設利用割引、イベント参加優先権、市の施策に関するグッズなど)を与え、地域活動の活性化、地域の交流を促進するために始めた制度です。福岡市は、平成6年度から実験的に9校区で実施し、本事業の採用を希望する校区を広げており、令和8年4月1日段階で70校区以上の校区が導入しています。我が校区も今年度から「ふくおかポイント」を導入しました。

私は福岡市東区香陵校区(人口:約6000人、すべて集合住宅のまち)の安心安全部会長を拝命し、今年で活動12年目となります。この間に自治会からの応援部員(安心安全部会員)の募集、幹事会の立ち上げ、夏祭りでの警備・防犯活動、防災訓練の企画・実施、防災セミナー等を行ってきました。このような企画を実施し、サポートしてもらうスタッフの方々は、すべてボランティアです。企画する責任者としてはボランティアなので強制はできず、あくまで地域の安全安心を高める活動であることに納得していただき、協力をお願いするものです。自治会への参加は、都市部・地方部関係なく低下していると聞きます。これは共働き世帯の増加、個族化社会の進

展、プライバシーの重視、隣近所に頼らなくても生活できる社会環境等、様々な要因があるとは思いますが、自治会や地域活動に参加してもメリットをあまり感じないというのが正直な本音ではないかと思えます。

私自身もボランティアとは言え、責任ある立場になるので、無責任なことはできず、地域活動などを運営していくにはそれなりに大変ですが、校区の多くの方と知りあい、地域が良くなっていくこと、地域へ少しは貢献できていることがメリットと言え、メリットかもしれません。

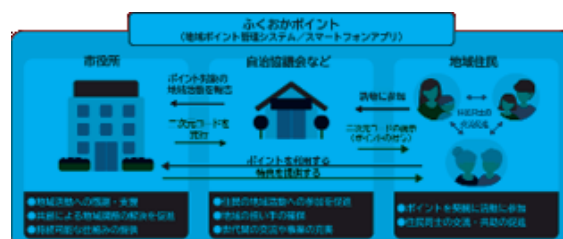
前々から地域活動にはボランティアとは言え、何かメリット・特典があれば、参画する人にとっては多少の励みになるのではないかと思っていました。

私も、今年度から校区自治協議会の副会長という役職を拝命したため、50ポイントを付与してもらいました。ちなみに市の施策に関するグッズでの特典は下表のとおりで随時拡大中とのことです。あと公共施設利用割引やイベント参加優先権等の特典の詳細はHPに詳しく記載されています。

表 特典～市の施策に関するグッズ

| ポイント | 特 典                                                                       |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 100  | 非常用保存食セット（約1日分）<br>野菜用又は花卉用肥料（1.3Kg）<br>燃えるゴミ用袋3ℓ（中）10枚入り1セット             |
| 50   | 雑がみ回収促進袋（5袋）<br>油山の木で作ったスプーン<br>油山の木で作った色鉛筆<br>福岡未来創造プラットホームノバルディグッズ（メモ帳） |
| 30   | 祇園の観音シール<br>健康づくりレシピ<br>水道水のみごろお知らせシール                                    |

我が校区では単に参加するだけではなく、活動スタッフとしてボランティア活動を行えば、ポイント付与の対象としています。このように各校区で決めた活動内容とポイントを市の方に申請し、審査・調整の上、活動内容ごとのQRコードが市から提供されます。対象となったQRコードを読み取れば、自動的にポイントが付与されるというシステムになっています。ふくおかポイントのアプリさえダウンロードしておけば非常に簡単な操作でポイントが自動的に溜ま



出典：福岡市 HP より

る仕組みとなっています。

我が校区では毎月第2日曜日の9時から1時間程度、校区清掃に参加すればと10ポイント付与とゴミ袋1枚をもらえます。7月に清掃活動に参加し、2度目のQRコード(10ポイント)を読み込みました。7月末段階で60ポイントです。

今年も夏祭り（警備・防犯担当）、防災訓練、防災セミナー等にスタッフとして活動するので1年間で何ポイントが貯まるのか楽しみです。

（山田 龍雄）

**総**「2050年の天気予報（Ver.2）」が一般公開されました

今年の夏は、35℃超の猛暑日が多発し、40℃超の酷暑日の地域も当初の6～10地点の見込みを大幅に超える34地点（2025年30地点）となり、私が脱炭素経営スクールの校長としてお伺いしている豊田市も40.8℃を記録しました。令和8年熊本地震は、近年では初めて猛暑日が続く中での震災となりました。また、欧州においても40℃超の記録的熱波で、関連死のみならず、山火事の多発、干ばつによる河川水量の低下による原発の稼働停止など、社会インフラそのものへの影響が発生しています。

こうしたなか、さる8月3日、「2050年の天気予報（Ver.2）」が広く一般公開（無料）となりました。

これは、日本気候リーダーズパートナーシップ（JCLP）、NHKエンタープライズ等の政策委員会を中心に、国連広報センター、東京大学気候と社会連携研究機構、国立環境研究所気候変動適応センター等の協力のもと公開されたものです。

そして、日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP：神奈川・逗子）が主幹事となって、毎年8月8日を「暑すぎる夏を終わらせる日」という記念日に登録、2026年は8月1日～9日を「暑すぎる夏を終わらせるWEEK」と決めました。

●既に 2014 年当時の 2050 年予報が現実

Ver.2 となっているのは、2014 年に世界気象機構 (WMO) が製作した「2050 年の天気予報」の内容を更新したからで、すでに世界の平均気温は+1.5℃に達し始め、当時予測していた 2050 年の東京都心の真夏日連続 50 日以上が、2023 年に既に連続 64 日となるなど、2050 で描いた危機のペースが早まり既に現実のものになってしまっています。

●2014 年当時既に安全保障問題として

世界気象気候(WMO)が 2014 年に初めて「2050 年の天気予報」を制作した当時、科学誌 Nature Climate Change (2015 年 10 月 27 日付け電子版) が、今世紀中に生存閾値(50℃)を超える猛暑で「ペルシャ湾岸に住めなくなる可能性」を発表し、当時の米オバマ政権のケリー国務長官は「気候変動は“脅威の増幅器”」と食糧安全保障や難民などの安全保障問題そのものであると国際会議において提唱していました。

●Ver. 2 の 2050 年予報内容

今回の Ver.2 では、現在のペースで温室効果ガスが排出され続けると、酷暑が 2026 年に 全国で 34 地点だったのが 2050 年には 157 地点に、群馬県伊勢崎市では 43℃に達し、保育所・幼稚園は休園、屋外運動や作業は厳禁、11～15 時は外出自粛令、熱中症関連の搬送多発で救急車不足に陥り 1 時間あまりを待つことになるなどが予報されています。妊婦や持病のある方への健康影響、感染症の増加等で、東京都だけで関連死が 1400 人に達し、オリンピックをはじめとするスポーツの夏季開催は無理になります。台風に目を向けると、太平洋上で 880hPa まで成長、上陸時には 920hPa、最大風速 60m/s、最大瞬間風速 100m/s のスーパー台風になり、例えば大阪では高潮が 5m に達し、130 万人が警戒レベル 4 の避難指示の対象になります。

また、食料予報もあり、熱波や水不足による米の不作、高温干ばつによる飼料や食用油、畜産も落ち込み、かつ井や揚げ物も気軽に食べられなくなります。2025 年の内閣府の調査によると、既に食品価格は過去 15 年他の物価変動から乖離する形で大きく上昇しています。

●ティッピングポイントの回避

温室効果の高いメタンを大量に含むシベリアの凍土の溶融や、二酸化炭素の吸収源である南米アマゾンの熱帯雨林のサバンナ化、海洋循環のポンプとなっているグリーンランドの氷床の融解など、気候変動が非可逆的状況になるティッピングポイントを回避することが急務です。そうした中で、特に地域メリットのある形での再生可能エネルギーの大幅な導入が提唱されています。

是非みなさま一度ご視聴ください。(詳しくは下記より) <https://www.japan88.jp/2050tenki>

(畑中 直樹)

## 新人紹介

■洪 銅基

令和 8 年 8 月に入社いたしました、洪 銅基(ホン ドンギ)と申します。

韓国で都市工学を学んだ後、2012 年に日本へ来て、九州大学大学院人間環境学府 都市共生デザイン専攻に入学しました。日本での生活は約 14 年になります。2020 年に博士(工学)を取得し、その後、九州大学大学院人間環境学研究院の特任助教を経て、現在は九州大学キャンパス計画室の訪問研究員として研究活動に携わっています。2024 年からはアジア景観デザイン学会の事務局長を務めています。また、2026 年 3 月からは韓国の Open Cyber University of Korea で特任教授を務め、QGIS を教えています。

これまで、ソウル市の大学キャンパス周辺における単身者向け集合住宅の立地特性をはじめ、景観



計画、都市再生、空き家、大学キャンパス、都市公園やオープンスペースなど、都市空間と人々の生活・行動との関係について研究してきました。最近では、GIS やシミュレーションによる分析、行政や事業者へのヒアリングなどを通じて、都市の余剰エネルギーとEV 充電インフラに関する研究にも取り組んでいます。

これまで大学を中心に研究活動を続けてきましたが、研究に加えて、実際のまちづくりや計画に関わる現場での経験も必要だと考えるようになりました。そこで、これまで培ってきた都市計画や GIS、調査・分析の経験を活かしながら、実務経験を積み、より実践的な視点を身につけたいと考え、今回入社いたしました。

趣味は、バイクに乗ることと、街を散歩しながら人の行動を観察することです。週末は、バイクで糸島周辺を走ったり、自宅のある薬院から天神、キャナルシティ、博多あたりまで歩き回ったりして過ごしています。

今後は、これまでの研究経験とこれから積み重ねる実務経験の両方を活かし、様々なプロジェクトに関わりながら、自分自身の専門性をさらに高めていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

#### ■宮寄 慧

令和 8 年 8 月に入社致しました、宮寄慧（みやざきけい）と申します。現在は愛する保護猫と暮らしています。

1993 年生まれのうどん（香川）県出身で大学から長く福岡で暮らしてきました。その後転職で高知県に移住し、最近また福岡に戻ってきました。帰って



きたなあという思いと真新しくなったビルや商業施設を見て自分が街に溶け込めていない感じがちなさを感じる今日この頃です。

高校 2 年の時に行った、とある大学のオープンキャンパスで初めて知った「都市設計」という学問。まちを歩き、まちの人とともに考え、計画・設計していく学問に、高校の勉強と違って面白そうだなと思ったことを今でも記憶しています。その後九州大学芸術工学部の環境設計学科に入学し、建築や都市設計、まちづくりについて学ぶ機会を得ることができました。大学院を修了し 1 年福岡で働いた後に、現場でまちづくりや観光に携わりたいと思い、心機一転、清流仁淀川の流れる高知県の越知町に地域おこし協力隊として移住することにしました。地域の事業者さんとともに小さなマルシェを定期的に開催する中で、アイデアを練り周囲を巻き込みながら実現していく難しさややりがいを感じる日々でした。

そして、これまでの現場での経験を活かして持続可能なまちづくりに関わりたいという思いからご縁があり、よかネットに入社することとなりました。多くの地域が直面している少子高齢化や公共施設の老朽化、産業の停滞などの課題に少しでも良い処方箋が出せるよう日々精進していきたいと考えています。まずは学ぶ、真似るということからこの仕事は始まると思っています。これまでの先輩方が築いてきたコンサルタントの理念や方法、コツなどをどん欲に学んでいく中で、自分のスタイルと専門分野を作り上げられればと思っています。

また、カメラが趣味なので、いろんな場所への出張でその瞬間の人々の表情や景色を撮って記録していきたいと思っています。そして美味しい地場のものも堪能したいと思います。

皆様といつかお会いできることを楽しみにしております。

### 表紙解説

157 号でもお伝えした、福岡市における高経年賃貸住宅に関する業務を、今年度も引き続き受託させていただき、3 ケ年度目に入りました。その中で、築

年数を重ねた民間賃貸住宅は、利便性の高い都心部に多く残っていることが分かってきました。その理由については今年度も引き続き調査を行っていますが、高経年の賃貸住宅にどのような価値を見いだしていくのか。巻頭の冷泉荘のような登録有形文化財として保存していく形は一つの姿と考えられます。その中で、登録有形文化財の制度が1996年にスタートして30年。そもそものような建物が登録され、どう移り変わり、今後、どう変わっていくかを知りたいと考えたのがきっかけです。

国の動きにおいても、2023年に文化庁の検討会議が戦後建築の継承に向けた法整備を提言し、翌年から建築文化ワーキンググループで継承計画や税制優遇の検討が続いています。一方で、丹下健三設計の旧香川県立体育館は今年4月に解体が始まり、登録有形文化財である大牟田市庁舎本館も新庁舎整備の中で保存の議論が続いています。

### ●データと手法

文化庁「国指定文化財等データベース」から2026年8月時点の登録有形文化財（建造物）14,745件を全都道府県分取得し、工作物・土木構造物を除く建築物11,721件を対象としました。名称は括弧書きを除き形態素解析により名詞を抽出し、「家」「住宅」や姓、方角などの定型語は除外しています。時代区分は文化庁の区分に従い、件数の少ない昭和中期（539件）と後期（83件）は「戦後」として合算しました。表紙の図は、語ごとに各時代の登録100件あたりの出現回数を求め、その語の最盛期を100として色の濃さを決めています。語の並びは出現分布の重み付き平均（時代重心）が古い順です。なお集計は棟単位です。

### ●戦後の頻出語

表1は昭和中期・後期の頻出語トップ20です。江戸から昭和前期まで1～3位を独占した「住宅」「家」「主屋」は昭和中期で100件台に落ち、「棟」「館」「小学校」「茶室」「教会」が上位に入ります。昭和後期は登録83件と少なく、「松山」「城」「櫓」は松山城で昭和40年代以降に木造復元された櫓・門14棟、「甲南」「女子」は校舎群の一括登録によるもので、戦後の登録が建築群として進む様子が伺えます。

### ●これから登録されていく建物は？

表紙の図の右端は「小学校」「庁舎」「美術館」「教会」で終わります。合併で生じた旧庁舎、統廃合で閉じた校舎、1990年代に建設が続いた美術館や図書館が次の候補の厚い層で、「ホール」「センター」などカタカナの名前や、閉鎖後の登録による「旧」が増えていくでしょう。住宅では、冷泉荘のような「アパート」「ハウス」「荘」が「主屋」に代わる語になるかもしれません。高経年の賃貸住宅の価値を語る言葉を、名前からも探していきたいと思います。

（櫻井 恵介）

表1 登録名称頻出語上位20（昭和中期・後期）

| 昭和中期（n=539） |      | 昭和後（n=83） |      |
|-------------|------|-----------|------|
| 語           | 出現回数 | 語         | 出現回数 |
| 家           | 117  | 松山        | 14   |
| 住宅          | 117  | 城         | 12   |
| 棟           | 47   | 学校        | 9    |
| 主屋          | 44   | 櫓         | 9    |
| 屋           | 28   | 住宅        | 8    |
| 館           | 26   | 家         | 8    |
| 場           | 22   | 甲南        | 8    |
| 土蔵          | 22   | 女子        | 8    |
| 神社          | 22   | 中学校       | 8    |
| 酒造          | 21   | 館         | 7    |
| 倉庫          | 20   | 棟         | 7    |
| 本館          | 20   | 会館        | 5    |
| 小学校         | 20   | 県立        | 5    |
| 所           | 15   | 本館        | 5    |
| 茶室          | 15   | 門         | 5    |
| 料亭          | 15   | 九州芸術工科大学  | 5    |
| 校舎          | 14   | 記念        | 4    |
| 東           | 14   | 島根        | 4    |
| 記念          | 14   | 太鼓        | 4    |
| 教会          | 13   | 市民        | 3    |

よかネット No. 161 2026. 9

（編集・発行）

（株）よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号  
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

mail:info@yokanet.com

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030